

分科会①【子どもの生活と道徳的諸価値が豊かにつながり、
よりよい生き方を求めるカリキュラム・マネジメント】

互いを認め合う集団づくりにつながる道徳教育の在り方

多度津町立四箇小学校 教諭 関 優子

1 主張点

総合単元的道徳学習を通して、児童の思いや考えを日常生活と関連付けて話し合うことで、道徳的実践力を高める。そして、互いを認め合える力を育てる道徳教育の在り方を探る。

2 研究の概要

(1) 児童の実態

本校は、児童数 299 名、15 学級（特別支援学級含む）の中規模校である。学校教育目標は「夢に向かって 未来を切り拓く 子どもの育成～自分や友だちのよさを知り、自分の可能性を信じて学び続ける子どもを育てる～」である。そして、めざす子ども像は、①陰ひなたなく、正しいことがすんでできる子 ②自分や友だちのよさに気付き、認め合える子 ③夢や目標をもつて、自分を高めるために努力し続ける子」である。

本学級の児童は、男子 12 名、女子 12 名、計 24 名である。とても素直で何事にも前向きでやる気に満ちており、友だちに対して親切心をもって接する児童が多い。指導されたことを素直に聞き入れ、行動することができる。授業中は、課題に熱心に取り組み、自分の考えをノートに書き、友だちと話し合うなど、学習の基盤ができている児童が多い。しかし、正義感が強い故に、友だちの行動に対して批判的に考え、強い口調で注意をする児童もいる。また、困っている友だちを助けようとする一方で、自分の役割を中途半端にしてしまうこともある。

運動会では、「競技の練習がしたい」や「遊びたい」等、一人一人の思いにすれ違いがあり、思うように練習ができなかったこともあり、それを心残りに感じている児童もいる。

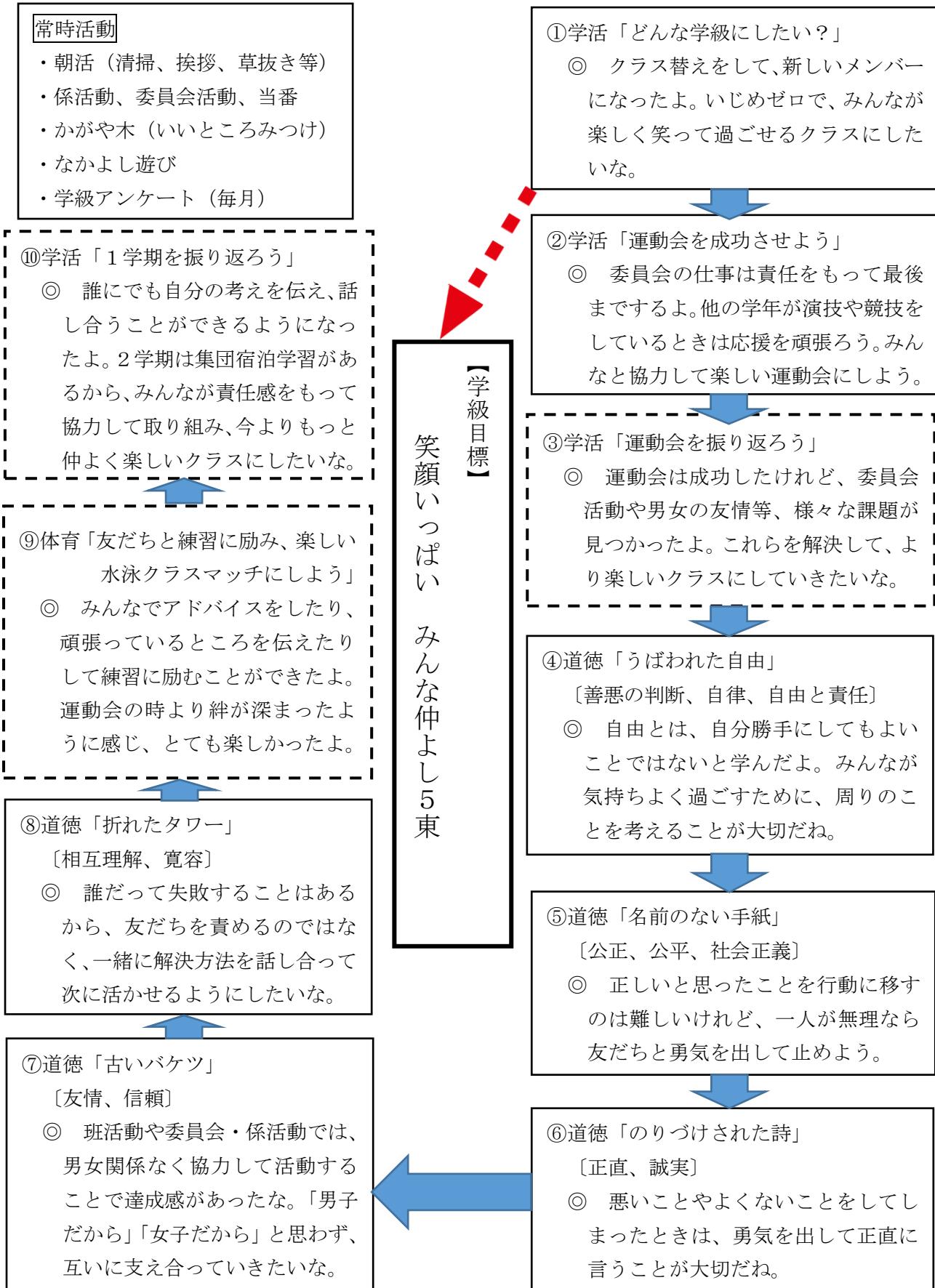
(2) 教師の意図や願い

道徳的実践へとつなげるために、道徳の授業だけでなく、日常生活や学校行事等と関わりをもつようとする。そして、自分だけでなく、周りの友だちも笑顔で過ごすための方法を考え、行動に移すことができるようにし、学級目標である「笑顔いっぱい みんな仲よし 5 東」を誰もが感じられるような学級づくりを目指す。

運動会を経て、6月は水泳クラスマッチに向けて児童は水泳学習に励んだ。運動会での経験をもとに、勝ち負けに関係なく「楽しかった」と思えるような行事にしたいと考え、どうすれば学級全員が互いによりよく関わりながら練習を行うことができるか話し合った。そして、1 学期に培った思いやりの心と責任感を、2 学期にある集団宿泊学習へとつなげていきたいと考えている。

3 研究の実際

(1) 他教科や行事との関連 (総合単元的道徳学習)



(2) アドバイスレター（道徳的実践力を高める手立て）

道徳の時間を中心に、学級活動や学校行事等の学習と関わりをもたせることで、様々な場面でより相手意識をもって多様な関連価値から道徳性を深めたいと考える。「してはいけない」と分かっていてもしてしまう心の弱さに打ち勝つために、単元を通して振り返りの時間に、「アドバイスレター」を作る。未来の自分に宛て、過去の自分の失敗や思いと励ましの内容の手紙を書くようにする。毎時間作成した手紙をまとめ、冊子にすることで、この先誘惑に負けそうな時に読み、正しい行動を取ろうとする意識を高める。

(3) 実践の具体

③学活「運動会を振り返ろう」

～児童が気付いた学級課題～

- 委員会活動では、自分の仕事を忘れてしまったことがあり、周りに迷惑をかけてしまった。【責任】
- 友だちに「○○しなよ！」と強い口調で言ってしまった。【相互理解】
- 遊びたい気持ちがあり、積極的に練習に参加しなかった。【自由と責任】

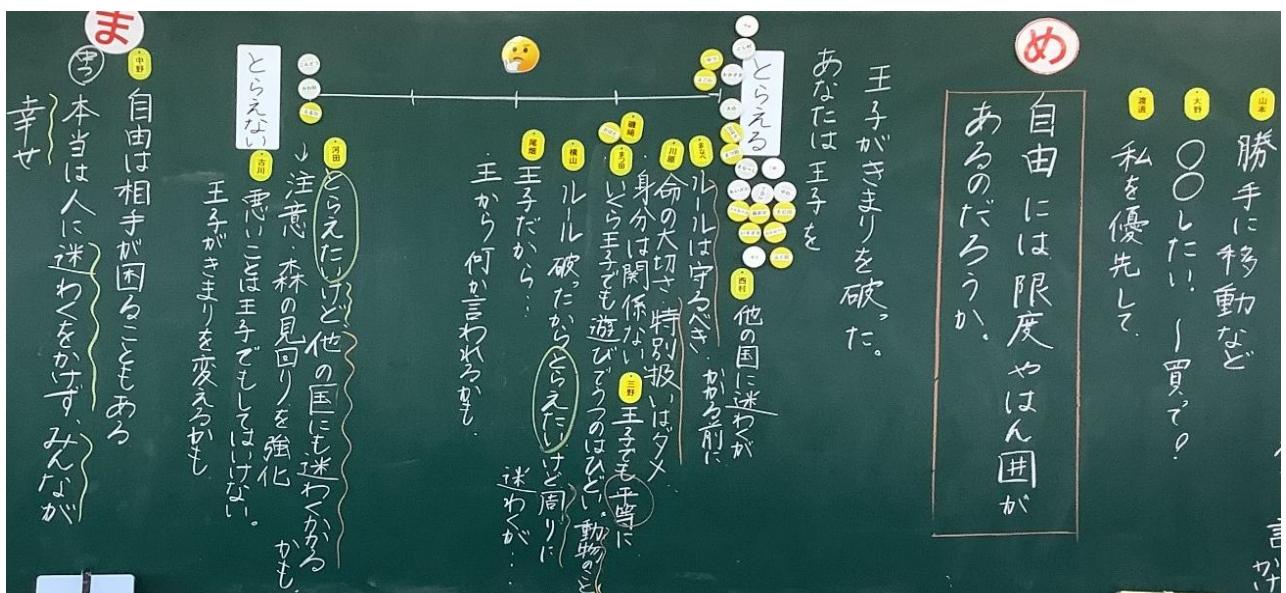
～教師から見た学級課題～

- 競争遊戯「二人三脚」では、性別を意識し、練習を避けようとする児童の姿が見られた。【友情】
→それに気付いていても、見ているだけの児童。【正義】
- 用具の片付けをせずそのまま下校し、翌日何も言わない児童。【誠実】

運動会を通して、様々な学級課題が見えてきた。そこで、総合単元的道徳学習を行い、道徳的価値として「善悪の判断、自立、自由と責任」、「公正、公平、社会正義」、「正直、誠実」、「友情、信頼」、「相互理解、寛容」を設定する。

④道徳「うばわれた自由」〔善悪の判断、自律、自由と責任〕

この資料では、やりたいことをするのが自由だと考えている國の王子ジェラールと規律の大切さを訴える主人公ガリューの考え方の相違を中心に取り上げ、「自由とは何か」について話し合わせた。



【板書】

未来のわたしへ

自由にして……よと言われたら、相手に迷惑をかけずに行動するといよ！私は今までに自由にしていいよとられて工作をしていたけれど、いろいろなつくれ、やがまよじと迷わくをかけてしまったから未だのわたしは考えて行動してね！

あなたが「森の番人アリュー」なるどうじますか？
一 どちらともいえない
一 どちらともいえない

理由「くらう」国の王子だ。おら。エルオルをやぶつていしわけがない。その人だけ特別あつかいはおかしい。

理由国の人「くらう」だから「くらう」玉じりて國のルールをやぶるのはだめだ。自分勝手すぎ。

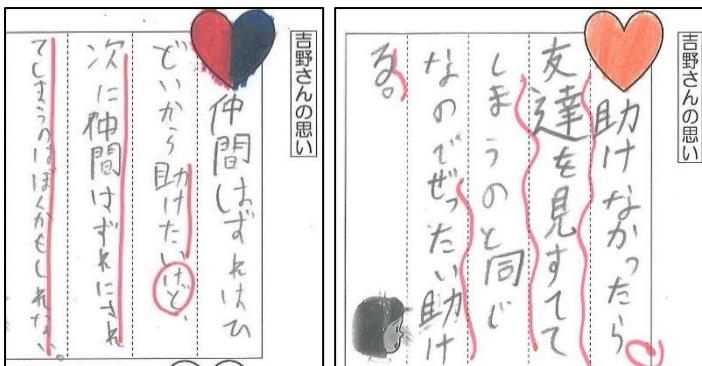
【ワークシート】

【アドバイスレター】

授業を終え、多くの児童が「自由は自分勝手にできると思っていたが、好き勝手にしてよいものではない。」や「周りの人たちのことも考える必要がある。」等と変容が見られた。また、「人に迷惑をかけず、自分も相手も楽しい気持ちで過ごすことが幸せな時間につながる」と考え、自由に対する価値理解を深めることができた。

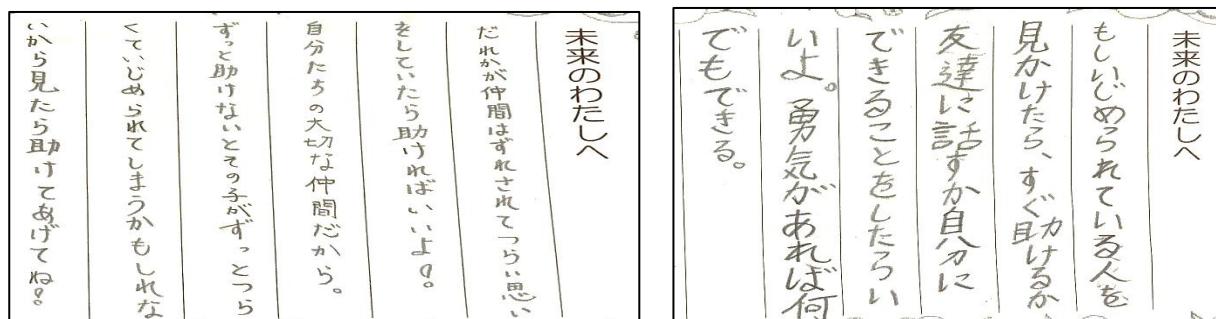
⑤道徳「名前のない手紙」〔公正、公平、社会正義〕

仲間はずれにされた「わたし」の気持ちや周りの子どもたちの思いや悩みを考え、見て見ぬふりをする子「傍観者」が、いじめを止める鍵をにぎっているということを知り、「勇気をもって正義を実現すること」について話し合った。



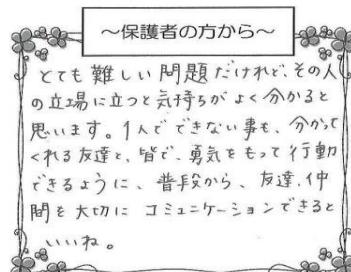
【ワークシート】

多くの児童が「助けたいけれど、仕返しが怖い」と考え、悩んでいた。そんな中、「絶対助ける！」という児童もあり、その思いの違いは何かを話し合ったところ、「勇気」、「友だち」という言葉が出てきた。一人では難しいことも、友だちとならすると、正しいと思ったことを行動に移そうとする気持ちが見られた。



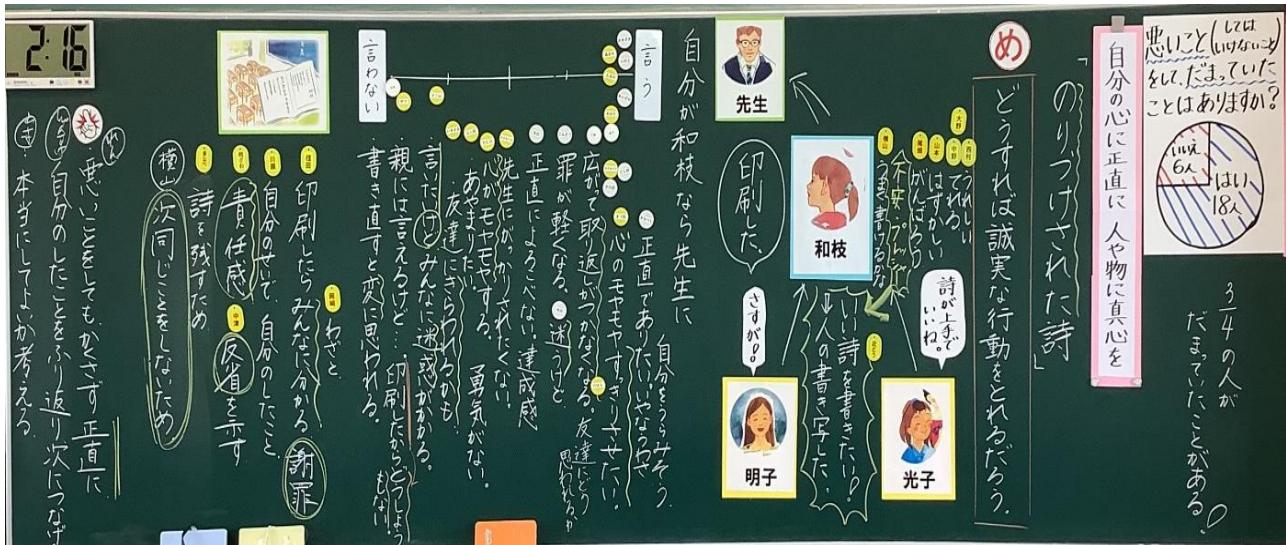
【アドバイスレター】

ワークシートを家に持って、「公正、公平、社会正義」について家族で話し合い、「いじめは絶対にしないし、見かけたら止める」という思いを強くした。また、保護者のコメントを児童に伝えることで、自分に味方がいることや友だちの大切さに気付くことができた。

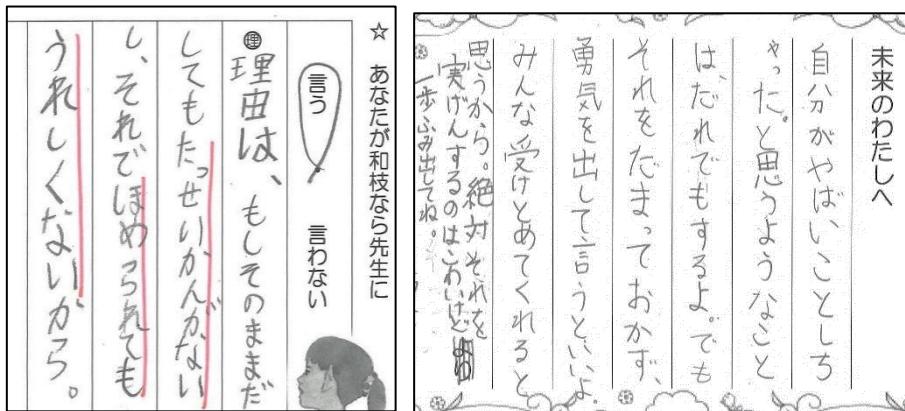


⑥道徳 「のりづけされた詩」〔正直、誠実〕

	学習活動	予想される児童の反応	教師の支援活動
つかむ (5)	1 アンケート結果から本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 叱られたくなくて、正直に言えなかつたことがあるな。 正直に言えないでいると、心がモヤモヤしたよ。 	○ 一人一人が自分事として捉え、学習課題をもつために、アンケート結果を掲示する。
つくる (15)	2 資料を読み、自分が和枝の立場なら先生に「言う」か「言わない」か考える。 (1) 自分で (2) ペアで (3) 全体で	<p>「言う」</p> <ul style="list-style-type: none"> 書き写すのは悪いことだよ。 心がモヤモヤして後悔しそう。 ダメなことはダメだ。 先生や友だちにばれたときが怖いから、早めに言った方がいいだろう。 印刷し直すこともできそうだ。 <p>「言わない」</p> <ul style="list-style-type: none"> 怒られたくないから、絶対に言わないぞ。 黙っていたら書き写したことは分からないんじゃないかな。 言った方がいいかも知れないけれど、もう印刷したからどうにもならないよ。 	○ 和枝の気持ちに共感するために、「いい詩を書きたい」という思いや友だちからのプレッシャーから他の詩を書き写してしまったことを人物関係図に書く。 評 和枝の立場から考え、ワークシートに書いたり、話したり合ったりすることができたか。 ● 理由が書けない児童には心情円盤で色を表しなぜその割合になったのかを考えるよう声をかける。
広げる・深める (15)	3 先生に本当のことを行なった時と、詩を糊付けした時の和枝の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 友だちからは不思議に思われそうだけど、和枝さんなりのけじめかな。 ごまかしたままだと、心がすっきりしないと思うな。 自分の心に正直になった証みたいだ。 後から見返したとき、同じことを繰り返さないために、気を付けられそうだ。 自分から正直に言った方が友だちも分かってくれるかもしれない。 	発 どうして、わざわざ鉛筆で書いた詩を糊付けしたのだろう。 ○自分がしてしまったことを隠さずにいた和枝の心情を考え、和枝の覚悟や正直・誠実にいることの大切さに気付けるようにする。
振り返る (10)	4 アドバイスレターを書く。	<ul style="list-style-type: none"> 正直についての自分へのアドバイスを手紙に書こう。 心にモヤモヤが残ったままだと、そればかり考えてしまうから、勇気を出して誠実な行いをしたい。 	○ 日常生活に活かそうとする意欲を高めるために、様々な場面を設定し、正直・誠実に生きようとするためのアドバイスを考えるようにする。



【板書】



【ワークシート】

【アドバイスレター】

事前アンケートでは、「悪いこと、よくないことをした時に黙ったままだと心がモヤモヤする」という児童の考えが多くあった。けれど、「叱られるのが怖い」という思いから正直に言うことができないことが分かった。それを踏まえ、第三者からの視線に立って考えることで、自分を見つめ直し、誠実な行動をすることの大切さに気付けた。

4 研究の成果と課題

- 総合単元的道徳学習を行うことで、子どもたちが日常生活の中で「道徳の授業で学んだから、こうした方がいいと思う！」等という声かけをするようになり、児童一人一人が今まで以上に学級の課題を意識して行動するようになった。それにより、相手のことを考える言動が見られ、道徳性が高まってきたと感じた。
- 「いいところ見つけ」の時間以外でも、友だちが頑張っているところを見かけたときに、自然と称賛の言葉を伝えたり、拍手が起こったりするようになった。子どもたち自身の力で認め合える雰囲気をつくっている。
- 失敗を恐れて自分から行動できない児童がいる。集団宿泊学習に向け、失敗を恐れず思い切ってチャレンジできる環境や雰囲気をつくる必要がある。
- 最近ではSNSや金銭トラブルも見られる。2学期以降も道徳の授業を中心に他教科と日常生活をつなげた学習形態を行っていきたい。

【児童の変容】(個人)

よくうそを言ってしまう。またやってしまったと思うけれど、正直になれない。



悪いことはやっぱりしてはいけない。すぐ隠そうとしてしまうけれど、勇気を出して本当のことと言おう。